



---

---

# P2P KILLER インストールマニュアル

---

---

ランドシステム株式会社  
作成日：2009/03/24

第2版

目 次

1. はじめに .....	3
2. システム要件 .....	4
2.1. 動作に必要な環境 .....	4
2.2. 監視サーバ .....	4
2.3. 検知クライアント .....	4
3. 監視サーバのインストール .....	5
3.1. PCを選定する .....	5
3.2. 小規模ネットワークの場合 .....	5
3.3. 監視サーバのインストール .....	6
3.4. Windowsファイアウォールの設定 .....	12
3.5. 検知クライアントのインストール準備 .....	14
4. 検知クライアントのインストール .....	15
4.1. 検知クライアントのインストール .....	15
4.2. 検知クライアントの初期設定 .....	18
5. アンインストール .....	19
5.1. 監視サーバのアンインストール .....	19
5.2. 検知クライアントのアンインストール .....	19

## 1. はじめに

この度は、有害ソフト検知システム「P2P KILLER」をご利用いただきまして、誠にありがとうございます。

本書では「P2P KILLER」のコンポーネントである【監視サーバ】と【検知クライアント】の導入について解説します。

「P2P KILLER」は、同一ネットワーク上のサーバPC 1 台で【監視サーバ】が常駐し、同一ネットワーク上に接続するPCに【検知クライアント】をインストールして有害ソフト起動を監視します。

有害ソフトは、Winny などの P2P ファイル共有ソフトだけでなく、企業のコンプライアンスに反するソフトウェアをお客様独自に有害ソフトとして指定できます。

## 2. システム要件

### 2.1. 動作に必要な環境

.NET Framework2.0
Visual Studio 2005 C++ランタイムライブラリ

※ 監視サーバ・検知クライアント共通。

### 2.2. 監視サーバ

OS	Windows2003Server 以降	※ 1
CPU	Xeon 2.4GHz 相当以上、マルチコアを推奨	※ 2
メモリ	1GB 以上	
HDD	256MB 以上の空きスペース	
NIC	100Mbps 以上	

※ 1 : 対象クライアント PC が 5 台以下 の場合は WindowsXP (SP2 以降) での動作も可能。

但し、常時稼働する PC であること。

※ 2 : 対象クライアント PC が 5 台以下 の場合はシングルコアでの動作も可能。

### 2.3. 検知クライアント

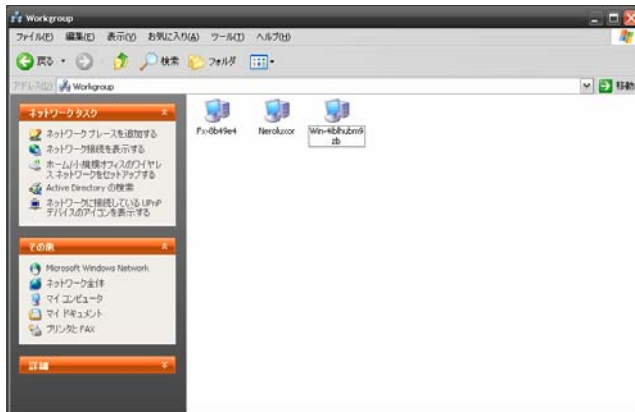
OS	WindowsXP SP2 以降
CPU	Pentium4 2GHz 相当以上
メモリ	512MB 以上
HDD	256MB 以上の空きスペース
NIC	100Mbps 以上

### 3. 監視サーバのインストール

#### 3.1. PCを選定する

【監視サーバ】は、1つのネットワークで1台のPCに導入します。

【監視サーバ】を導入するPCのマイネットワークに表示されるPCが、監視対象となるクライアントとなります。



3.1.1. [図] マイネットワークのPC一覧


通常はシステム要件を満たしたサーバPCを【監視サーバ】としてください。

【監視サーバ】は、常にネットワーク上のクライアントPCを定期的に監視し、ブラックリストの一斉配布など、一括で処理する通信が頻繁に発生します。

その際のCPU負荷・メモリ使用量を抑えるため、【監視サーバ】はマルチスレッド処理を実装しています。

マルチスレッド処理を有効に活用出来るのが**マルチコアCPU**です。

シングルコアCPUに【監視サーバ】を導入すると、クライアントPCが増えた場合にサーバPCのパフォーマンスが低下しますのでご注意ください。

 【監視サーバ】のWindowsファイアウォール設定を“無効”または“例外”許可設定にする必要があります。詳しくは「3.4.Windowsファイアウォールの設定」をご覧ください。

#### 3.2. 小規模ネットワークの場合

**クライアントPCの最大同時接続数が5台以下**の場合は、WindowsXP(SP2以降)を【監視サーバ】とすることが出来ます。

WindowsXPは共有フォルダへの最大同時接続数に制限がありますが（これはMicrosoft社のWindowsの仕様によるものです）、クライアントPCが小規模のネットワークの場合はWindowsXPでも十分に

【監視サーバ】機能が運用可能です。

WindowsXPのPCを【監視サーバ】として運用する場合には、下記の条件を満たすようお願いをください。

- ① ワークステーションマシン推奨（常時稼働の安定性を考慮）
- ② 常時稼働するPCである
- ③ システム要件を満たしている

### 3.3. 監視サーバのインストール

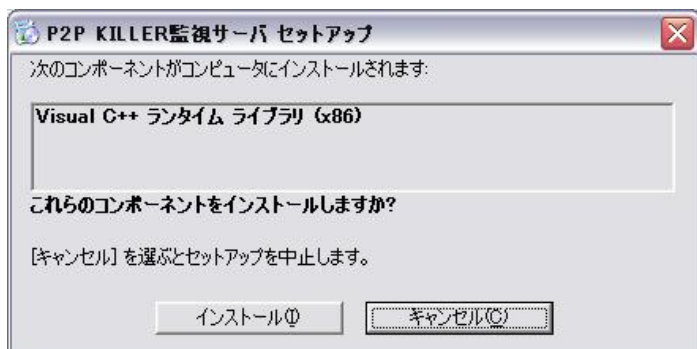
「P2P KILLER」のインストーラは、【監視サーバ】インストール時にサーバPCの固有情報を取得してお客様環境に合わせた【検知クライアント】インストールパッケージを自動作成します。インストーラCDの【検知クライアント】インストーラ単体でインストールしても、【監視サーバ】とは正しく接続されませんのでご注意ください。

- 1) インストールCDをサーバPCにセットします。
- 2) マイコンピュータでインストールCDを参照します。
- 3) インストールCDの「P2P KILLER\_Installer」フォルダを、サーバPCの任意のフォルダにコピーします。
- 4) 「Server」フォルダの「setup.exe」を実行します。
- 5) 必須コンポーネントの.NET Framework2.0 がPCにインストールされていない場合、自動的に.NET Framework2.0 のインストール画面が起動します。  
.NET Framework2.0 が入っている場合は7)の画面になります。



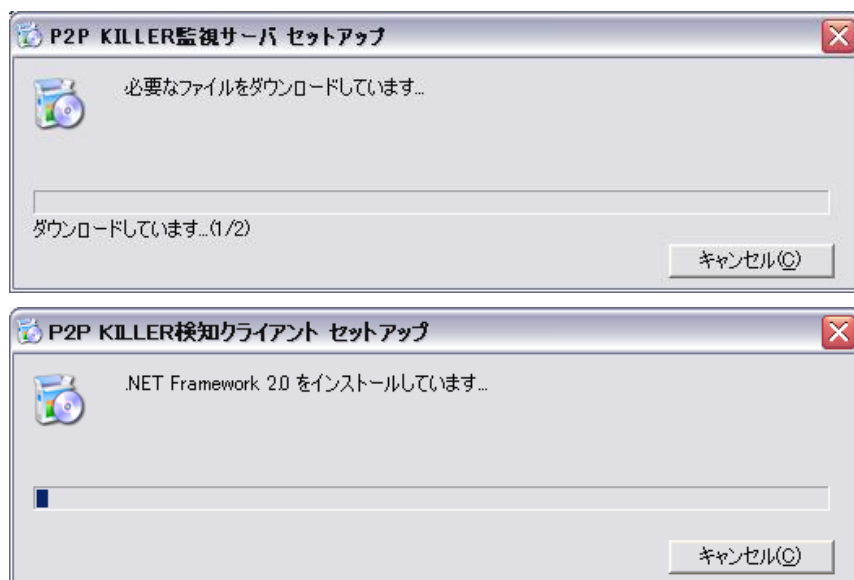
- 6) [同意する。] をクリックします。

- 7) 必須コンポーネントの Visual Studio 2005 C++ランタイムライブラリがPCにインストールされていない場合、Visual Studio 2005 C++ランタイムライブラリのインストール確認画面が表示されます。



- 8) [インストール] をクリックします。

- 9) .NET Framework2.0 と Visual Studio 2005 C++ランタイムライブラリのインストールが開始されます。



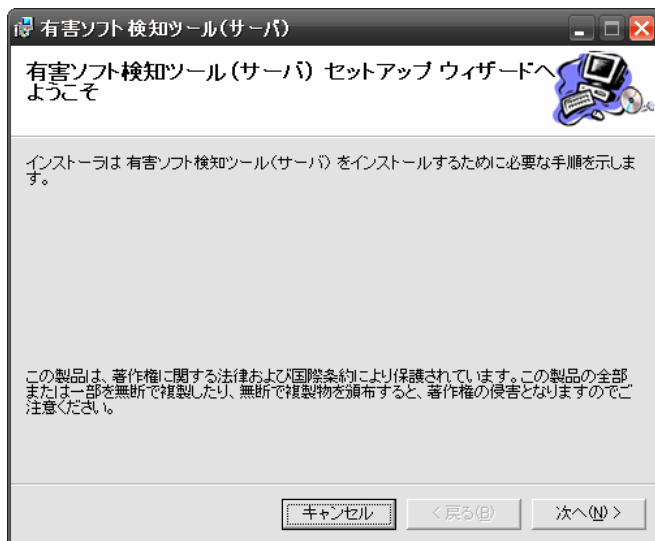
.NET Framework2.0 のインストール画面です。



Visual Studio 2005 C++ランタイムライブラリのインストール画面です。

- 10) .NET Framework2.0 と Visual Studio 2005 C++ランタイムライブラリのインストール終了後、P2PKILLER のセットアップウィザードが起動します。

[次へ(N)] をクリックします。



3.3.1. [図] 監視サーバのインストール①

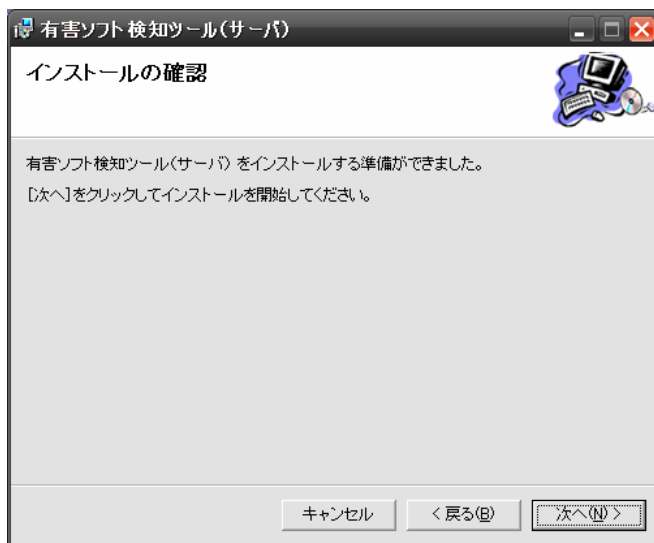
- 11) インストールフォルダに変更が無ければ [次へ(N)] をクリックします。



3.3.2. [図] 監視サーバのインストール②

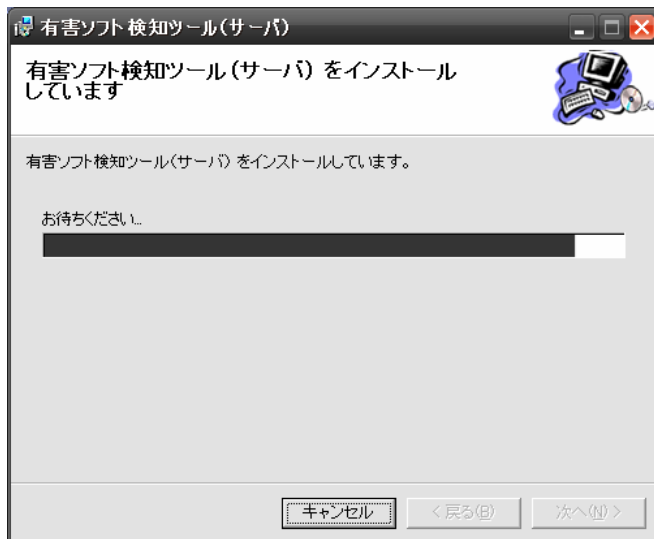


- 12) インストール確認画面で[次へ(N)] をクリックします。



3.3.3. [図] 監視サーバのインストール③

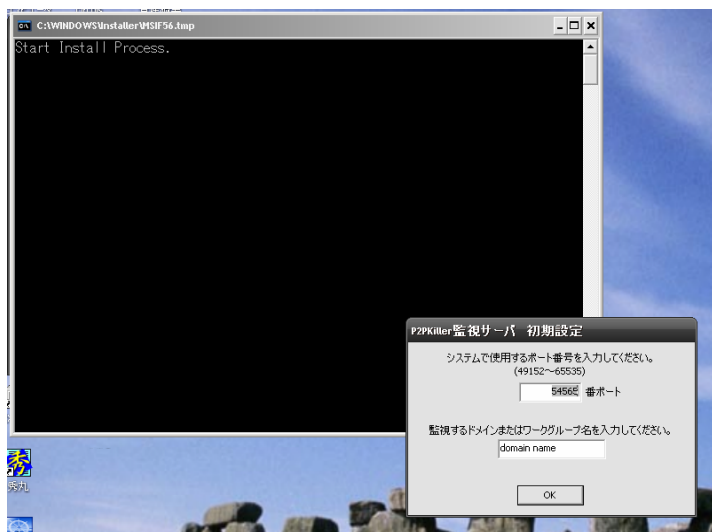
- 13) インストールが始まります。



3.3.4. [図] 監視サーバのインストール④

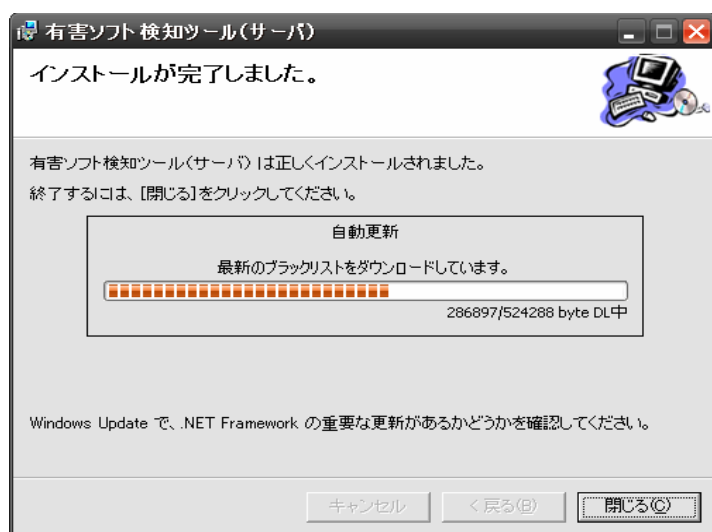
- 14) ポート番号とドメインまたはワークグループ名の指定を行います。

他のアプリケーションと重複しないポート番号と、監視対象のドメイン名またはワークグループ名を指定してください。



3.3.5. [図] 監視サーバのインストール⑤

- 15) 「P2P KILLER 監視サーバ 初期設定」画面で[OK]ボタンをクリックすると、F T Pサーバ ※1 から最新のブラックリストが自動ダウンロードされます。



3.3.6. [図] 監視サーバのインストール⑥

※1：最新ブラックリストは、弊社にてサービス提供しているホスティングサービス「diamond-web」の F T Pサーバからダウンロードしています。

弊社指定の有害ソフト（公式ブラックリスト）に登録しているソフトウェアのバージョンアップを弊社にて確認次第、最新ブラックリストを F T Pサーバに公開いたします。

- 16) インストール完了です。[閉じる(C)]ボタンをクリックします。



3.3.7. [図] 監視サーバのインストール⑦

- 17) インストール完了後、「P2P KILLER 監視サーバ」がタスクトレイに常駐します。



3.3.8. [図] 監視サーバのインストール⑧

- 18) タスクトレイのアイコンを左クリックすると「P2P KILLER 監視サーバ ログイン画面」が表示されます。

! インストール時のパスワード初期値は「admin」です。

「P2P KILLER 監視サーバ」の操作については、別紙 *P2P KILLER 操作マニュアル* をご参照下さい。

### 3.4. Windowsファイアウォールの設定

【監視サーバ】をインストールしたサーバPCの「Windows ファイアウォール」設定を確認してください。

(Windows2003Server の例)

スタート → すべてのプログラム → コントロールパネル → Windows ファイアウォール の順にクリックしていきます。



3.4.1. [図] Windows ファイアウォール

Windows ファイアウォールが**無効**に設定されている場合

- ・本章の設定は不要です。

Windows ファイアウォールが**有効**に設定されている場合

- ・【監視サーバ】を例外設定します。  
例外を許可しない にチェックが入っている場合、チェックを外してから以下の設定にお進みください。

1) Windows ファイアウォールの「例外」タブをクリックします。

2) [ポートの追加(O)] ボタンをクリックします。

3) 「ポートの追加」画面にて、下記の値を入力します。

名前 : 任意の名称で構いません。例: P2PKILLER\_SERVER

ポート番号: 【監視サーバ】インストール時に設定したポート番号を入力します。  
初期値は “54565” です。



3.4.2. [図] ポートの追加

4) [OK] ボタンをクリックします。

以上で「Windows ファイアウォール」の設定は完了です。

### 3.5. 検知クライアントのインストール準備

【監視サーバ】のインストールが完了すると、インストールCDからコピーした「P2P KILLER\_Installer」フォルダの「Client」フォルダ内に『HarmfulDetection.p2kb1』が作成されます。

このファイルはサーバPC情報とブラックリスト情報を暗号化したものです。

【検知クライアント】の配布手順には以下の方法があります。

① 共有フォルダを利用する

→ 「Client」フォルダを共有フォルダに設定し、各PC利用者に共有フォルダのパスを通知し、ネットワーク経由でインストールしてもらいます

② CD-Rを配布する

→ 「Client」フォルダと「Autorun.inf」をCD-Rに書き込み、各PC利用者にCD-Rからインストールしてもらいます

③ USBメモリを配布する

→ 「Client」フォルダをUSBメモリにコピーし、各PC利用者にUSBメモリからインストールしてもらいます

いずれの手順を選択しても、【検知クライアント】のインストールの際には「Client」フォルダにある『setup.exe』を実行します。

次章「4. 検知クライアントのインストール」では、② CD-Rを利用する を例に解説します。

## 4. 検知クライアントのインストール

### 4.1. 検知クライアントのインストール

- 5) インストールCDをサーバPCにセットします。  
自動でセットアップウィザードが起動します。[次へ(N)] をクリックします。



4.1.1. [図] 検知クライアントのインストール①

- 6) インストールフォルダに変更が無ければ [次へ(N)] をクリックします。



4.1.2. [図] 検知クライアントのインストール②

- 7) インストール確認画面で[次へ(N)] をクリックします。



4.1.3. [図] 検知クライアントのインストール③

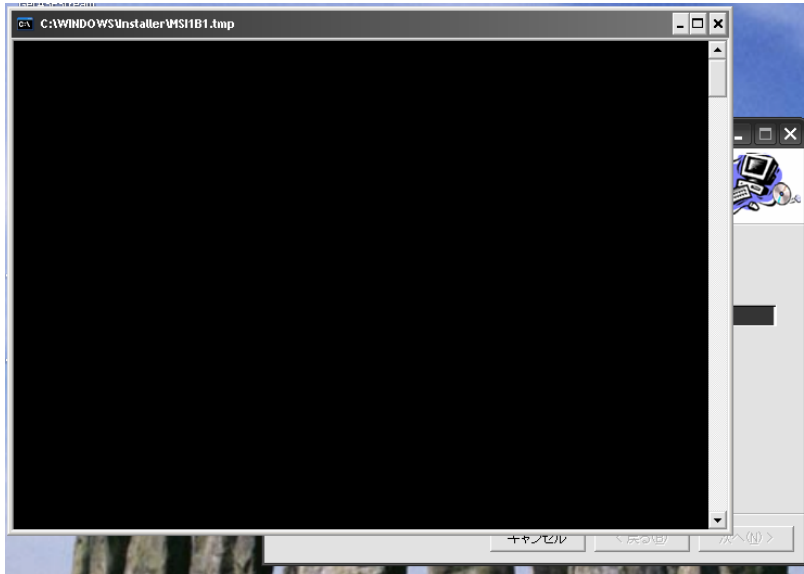
- 8) インストールが始まります。



4.1.4. [図] 検知クライアントのインストール④



- 9) インストールの最中に黒いウィンドウが表示される場合がありますが、これはインストール途中の正常処理です。



4.1.5. [図] 検知クライアントのインストール⑤

- 10) インストール完了です。[閉じる (C)] ボタンをクリックします。



4.1.6. [図] 検知クライアントのインストール⑥

- 11) インストール完了後、「P2P KILLER 検知クライアント」がタスクトレイに常駐します。



4.1.7. [図] 検知クライアントのインストール⑦

## 4.2. 検知クライアントの初期設定

【検知クライアント】ではユーザが設定出来ることは、ほとんどありません。  
「P2P KILLER」で設定可能な情報は、ほぼ【監視サーバ】のシステム設定に集約しています。  
【検知クライアント】はブラックリストに登録された有害ソフトの起動検知・強制終了と、  
【検知クライアント】が正しく常駐していることを【監視サーバ】に通知することが  
主な役割です。

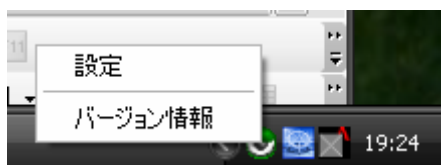
ここでは、【検知クライアント】で設定可能な項目について解説します。

### 4.2.1. 設定

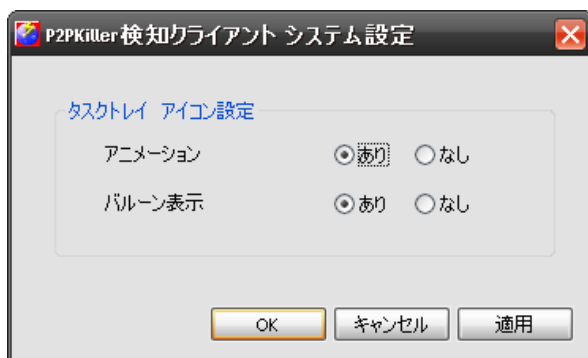
タスクトレイに常駐している【検知クライアント】の動作を設定します。  
アニメーションアイコンやバルーン表示の有効・無効を設定出来ます。

<設定手順>

- 1) タスクトレイの【検知クライアント】アイコンを右クリックします。
- 2) 表示されるメニューから[設定] を左クリックします。



4.2.1. [図] 検知クライアントの設定①



4.2.2. [図] 検知クライアントの設定②

#### ① アニメーション

あり：タスクトレイのアイコンのアニメーションを有効にします  
なし：タスクトレイのアイコンのアニメーションを無効にします

#### ② バルーン表示

あり：有害ソフトの起動検知など、「P2P KILLER」のシステムメッセージを  
タスクトレイでバルーン表示します  
なし：バルーン表示を無効にします

[OK]または[適用]ボタンをクリックすると即座に設定が反映されます。

## 5. アンインストール

### 5.1. 監視サーバのアンインストール

【監視サーバ】をアンインストールする場合は、「コントロールパネル」の「プログラムの追加と削除」から“P2P KILLER 監視サーバ”を選択して削除を実行してください。

【監視サーバ】を別のサーバPCに移行する場合は、【監視サーバ】のアンインストール前に以下のファイル及びフォルダをバックアップしてください。

SysConfig.pks	パスワードを含むシステム設定情報が格納されています
MDB フォルダ	ブラックリスト情報が格納されています
LOG フォルダ	過去ログファイルが保存されています

移行先のサーバPCで【監視サーバ】のインストール後に上記ファイル及びフォルダを上書きコピーすると、移行前の【監視サーバ】の設定情報を引き継ぐことが出来ます。

### 5.2. 検知クライアントのアンインストール

【検知クライアント】をアンインストールする場合は、「コントロールパネル」の「プログラムの追加と削除」から“P2P KILLER 検知クライアント”を選択して削除を実行してください。

**【商標および著作権】**

本ソフトウェアと関連プログラム及びマニュアル等の著作権は  
ランドシステム株式会社が有しています。

\*Microsoft、Microsoft Windows 2003 および Microsoft Windows XP は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。

\*その他、記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

---

Copyright © 2009 Land System Co.Ltd. Allrights Reserved.